

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会・会報

--- 日独交流 150 周年記念ドイツ親善旅行特集 ---

2011年8月1日

38号

発行者 鈴木 克彬
発行所 ぐんま日独協会
〒371-0105 群馬県前橋市
富士見町石井 2445-219
027-288-4297
info@jdg-gunma.jp



上空から見たエアフルト郊外

日独交流 150 周年記念 ドイツ親善旅行 報告	2
ベルリン	3
ポツダム	4
エアフルト	5
ミュンヘン	6
ウルム・バルトハウゼン	7
ぐんま日独協会のお知らせ・ご案内	8

日独修好 150 周年記念 ドイツ親善旅行 報告

ぐんま日独協会 会長 鈴木克彬

日独交流 150 周年記念として去る 4 月に独日協会員 27 名が東日本大震災の直後にもかかわらず、群馬県を含めて日本各地を訪問してくださりました。そして今般、下記 10 名のぐんま日独協会員が次の様な日程でドイツへ行って参りました。ここに、その概要を報告致します。

参加者 鈴木克彬・和子、近藤基晴・洋美、高橋忠夫・和佳子、
高野 誠・広美、田部井欣司、白倉由美子 (計 10 名)

日程 5/27 (金)	成田-LH711-フランクフルト-LH186-ベルリン、オペラ鑑賞	ベルリン泊
5/28 (土)	ベルリン市内観光、夕刻 タウト設計の集合住宅見学	ベルリン泊
5/29 (日)	バスでポツダムへ、サンスーシー宮殿等 2ヶ所を見学	ベルリン泊
5/30 (月)	ベルリン-列車-エアフルト、セスナ機での遊覧飛行	エアフルト泊
5/31 (火)	エアフルトとワイマール市内観光・捕虜収容所	エアフルト泊
6/ 1 (水)	ベルリン-列車-ミュンヘン、夜 ホフブロイハウス	ミュンヘン泊
6/ 2 (木)	ミュンヘン市内見学美術館等、夜独日協会前夜祭参加	ミュンヘン泊
6/ 3 (金)	ミュンヘン-列車-ウルム、午後 ウルム市内見学	ウルム泊
6/ 4 (土)	ウルム-列車-バルトハウゼン (蒸気の観光列車に乗車)	ウルム泊
6/ 5 (日)	ウルム-列車-ミュンヘン、ミュンヘン空港-LH714-成田	
6/ 6 (月)	成田着	

特徴 1：ホテルや乗り物の手配等を含め、旅行会社のお世話にならず、すべての面で自主旅行を実行した。そのため旅行費用は格安となった。
2：各地でドイツ在住の知人と交流を図り、又案内もしていただいた。

お伝えしたいこと

1. ドイツ人から日本人を見る目は常に暖かい。そのため、安心してお付き合いをすることが出来る。とにかく日独両国民は相互の信頼感が高い。
2. ドイツ人は、真面目である。やはり誠実な日本人と相性が良い。
3. 現在の日独友好の絆は、この 150 年間ご尽力された先人方のご努力の賜物と思われる。

私達は、この友好関係をいかに次の世代に引き継ぐか、が課題である。

ベルリン5月27日

成田からフランクフルト経由でベルリンに予定通り到着した。空港にはベルリン独日協会の溝延輝恵さんと Barbara さんが出迎えてくれた。ホテルチェックイン後は19:30開演のオペラ「蝶々夫人」鑑賞だ。輝恵さんのご主人 Gerd Schulze さんも加わってくれた。ドイツ語字幕と好演出のおかげで、時差にもかかわらずおおいに楽しむことができた。

ベルリン5月28日

昼間は徒歩主体のベルリン市内見学だ。まずはじめに Hackesche Höfe (写真1) というユーゲント・シュティール様式の建物群を見学した。この様式は19世紀末ドイツ圏の世紀末芸術の傾向を指し、広義のアール・ヌーヴォーと同じ意味だという。新しいベルリンミッテのカルチャー発信スポットとして機能しているという。



写真1：Hackesche Höfe

昼食後は博物館島を通過してウンターデンリンデン方面に散策だ。途中、近くを原発反対のデモ隊が通ったが、大きな混乱はなかった。

夕方は世界遺産に登録されているタウト設計の集合住宅ジードルンク (写真2) を見学した。ちょうどタウト祭り (写真3) という地元の人々のお祭りが行われており、幸いにもそのうちの一軒のお宅の中を見せていただくという非常にまれな機会に恵まれた。このお宅は馬蹄形を取り巻く一般的並びの建物 (写真3の奥に見える建物) の中にある。3階建てで3階分を一軒が使う集合住宅構造になっていることから一軒ごとに自分専用の庭を持つことができる。を見せていただいたお宅は賃貸ではなく、買い取りで個人所有となっていた。馬蹄形の建物の方は各階ごとに住人が違うので中庭は住人全体で使用することになる、という違いがある。



写真2：馬蹄形集合住宅



写真3：タウト祭りの屋台

ベルリン5月29日

午前中バスで「ベルリンの壁イーストサイドギャラリー」などベルリン市内を見学した。その後、ポツダムに移動しポツダム見学 (次頁参照) のあと、夜はベルリン独日協会会長ご夫妻をはじめ会員の方々との食事会・親睦会を行い、友好を深めあうことができた (写真下)。



食事会で和やかな中でお互いに親睦を深め合った

(近藤 記)

ポツダム5月29日 Schloß Cecilienhof (ツェツィーリエンホフ宮殿)

私達は朝9時にバスにてホテルを出発し、ベルリンの壁を見学の後ポツダムへと向かった。東西分裂の当時、捕虜の交換を行ったという橋を渡り、「ポツダム会議」の会場となった“Schloß Cecilienhof” (写真下) を訪問した。この城は20世紀の初めに建てられたもので、ホーエンツォレルン家最後の王子、ヴィルヘルムが家族と住んでいた宮殿。ポツダム宣言が採択された場所としても知られている。現在、その半分以上の部屋がホテルとして利用されている。ポツダム会談はナチス・ドイツ降伏後の1945年7月17日~8月2日、ベルリン郊外のここに、米国、英国、ソ連の三か国の首脳が集まり、第二次世界大戦の戦後処理と日本の終戦について話しあわれた。



Schloß Cecilienhof 入り口 (ポツダム会談会場)

“Schloß Cecilienhof” を後にしてバスは「Sanssouci 宮殿」を訪問した。宮殿の開始時間待つ間、庭を散策した。庭には、ブドウ棚やイチジクを育てる温室もあり、宮殿を下から眺めるとバランスのとれた素晴らしいながめであった。サンスーシーとはフランス語で「憂いなし」という意味らしいが、当の住人はそれどころではなかったろう、という噂であった。サンスーシー宮殿は、プロイセン王国時代の1745年から1747年にかけて、フリードリヒ2世王の命によって「夏の離宮」として建てられた。この日は、在日大使館の五年間の務めを終え、今度ドイツに帰られるゲーリック夫人も参加され、花を添えてくれました。これからの旅行もそうですが、多くの方々に支えられて、楽しい、そして充実した旅を続ける事ができました。



サンスーシー宮殿中庭にて

(田部井 記)

エアフルト5月30日

エアフルトでは、駅頭で現地の独日協会会長であるラインハルトさん・章子さんご夫妻（以下、ご夫妻と記す。）をはじめ、多くの方が日章旗と日本語の横断幕を広げて出迎えてくれ、感慨深かった（写真1）。

まず、ご夫妻の自宅に案内されたが、庭の一角には日本庭園や竹林があり、室内には能面や扇子などがインテリアとして置かれており、日本文化への関心の深さがうかがわれた。

その後、思いがけず、ご夫妻のセスナ機による遊覧飛行に誘われた。大きな格納庫からセスナ機を引き出す作業（写真2）には多少の時間を要したが、機上では、眼下に広がる町並みや丘陵地帯、その遙か彼方に広がる森林地帯を舞台にしたダイナミックな光景を存分に味わった（写真3）。



写真1



写真2



写真3

エアフルト5月31日

朝食前にエアフルト中央教会の内部を教会関係者の方とラインハルトさんの特別な計らいにより見学できることになった。普段はまず見ることのない教会の屋根裏や数個の巨大な釣り鐘に触れるなどの珍しい経験ができた。

朝食後は、エアフルトの旧市街を散策した。クレーマー橋上の陶器店でラインハルトさんの友人でもあるご主人がちょうど店を開けに来たところであり、幸運にも工房を見学することができた。ご主人は作曲が趣味であり、東日本大震災で被災した人々に捧げる自作の曲をギターで披露してくれるというおまけもあった。

午後は、ワイマールのゲーテ博物館を見学した後、ブーヘンヴァルト強制収容所に向かった。ナチス・ドイツによるユダヤ人虐殺の場の一つである。閉館間際であり、受付係に若干せかされての見学であったが、私たちは、そこにご夫妻の「ドイツの負の遺産も是非見せたい」という強い意志を感じ取った。

エアフルトを去る際、ご夫妻と私たちはハグ（抱擁）しながら別れを惜しんだが、それは、まさしくこの地で私たちが体験したことが凝縮された光景だった。

現地で寿司店を営む佐分さんご夫妻には、おにぎり弁当を作っていただいたが、日本食が恋しいときであり、実にありがたかった。

心からもてなしてくれたエアフルトの皆さんに心からの感謝を申し上げたい。

（高野 記）

ミュンヘン6月1日

『ミュンヘンは輝いていた。この首都の晴れがましい広場や白い柱堂、昔ごのみの記念碑やバロック風の寺院、ほとぼしる噴水や宮殿や遊園などの上には、青絹の空が照り渡りながらひろがっているし、そのひろやかな、明るい、緑で囲まれた、よく整った遠景は、美しい六月はじめの昼もやの中に横たわっている。』（トーマスマン-神の剣-実吉捷郎訳）

6月1日朝エアフルトを発ち、午後2時40分にミュンヘンに到着する駅の喧騒の中を歩きながら私はこの文章を思い出していた。

全員無事に駅近くのホテルにチェックインし、元気な人達は夕食にホフブロイハウスにビールを飲みに行くことになった。巨大な建物である。我らは案内されて三階に行く。そこはバイエルンの民族衣装を着た楽団の生演奏と歌とビールの熱気で満ち溢れており、既に満員である。やっとのことで席をみつけビールと茹でソーセージを注文する。陶製のジョッキは重い。1Lのビールである。ビールもソーセージも美味しい。これが幸せと言うものかと実感しほろ酔い気分ホテルに戻る。

ミュンヘン6月2日

独日協会の前夜祭が街の市役所の地下の伝統を感じさせるレストランで行われた。独日協会からはフォンドラン会長を始め100名を超える仲間がドイツ各地から参加し、また日本からは木村元大使ご夫妻、湘南日独の織田さん、大阪日独の和田さんの4名、及びぐんま日独協会員10名の計14名が参加し友好を深めた。ドイツ側には今年4月の日本訪問団に参加され、軽井沢で親しくした人たちも数多くおり、久闊を深めることが出来たことは喜ばしいことであった。ビールを飲み、ドイツ料理を食べ宴会は延々と続き、我らがそこを抜けだしたのは開始から4時間後の10時頃であったろうか。それにしてもドイツ人はよく飲み、よく食べ、よく議論をする。

外にでると10時と言うのにまだ通りや広場は人々で満ちている。今日もまたお腹が膨れて気分よくホテルに戻り幸せな晩となった。



独日協会総会前夜祭の席上で話がはずむ独日協会員とぐんま日独協会員

(高橋 記)

ウルム 6月3日

都合で帰国するT氏とミュンヘン駅で別れ、我々はウルムに向かった。

ウルムはミュンヘンからICで一時間半程のドナウ河畔の町で、世界一高い塔を持つ大聖堂が有名であり、又、アインシュタインの生地としても知られている。

バルトハウゼン 6月4日

ウルムに一泊して、今日は今回の旅の番外編、エクスレ鉄道乗車の日である。エクスレ鉄道というのは所謂ドイツ各地にある博物館鉄道の一つで、ウルム近郊のバルトハウゼンとオクセンハウゼンという小さな町の間を走っている。そしてなんと我々はこのエクスレ鉄道の株主なのである。縁あって株主になったものの、実際に乗車する日がこんなに早く来るとは思っていなかった。

遙々やってきた株主一行を会社は勿論、市長さんまでがシャンパンを用意して大歓迎してくれた。



到着駅オクセンハウゼンでは市長さんの大歓迎を受けた



エクスレ鉄道のSL



小型SLながら堂々の構成

「花が摘める」と云われる程のゆっくりとした速度で走るのが人気で、この日も満員の盛況だった。さあ、一時間半の「エクスレ鉄道小さな旅」の出発だ。

なだらかに続く緑の丘を馬が駆けてゆく。牛がのんびりと草を食んでいる。赤い罌粟（けし）の花で縁取られた麦畑。はるか遠くに教会の塔。村に近づいたかと思うと、ニワトリが遊ぶ農家の庭先をかすめて走る。農作業をしながらおばちゃんが手を振っている。そして又、鬱蒼とした森の暗がりに入ってゆく。車窓の景色は次から次へと変わり、目をはなす間もない。

男性陣には、機関車の「かまたき」というおまけまであった。おでこに炭をつけて、それでも満足そうな笑顔が少年のようで微笑ましかった。



機関車の運転席



釜炊きの手伝い、それともお邪魔虫？



車掌気分

又訪れてみたいという思いを強くしながら、この小さな旅を終えた。（白倉 記）

ぐんま日独協会のお知らせ・ご案内

ご家族、ご友人をお誘い合わせのうえ、お出かけください。

A 日独交流 150 周年記念 第 4 回ドイツフェスティバル in ぐんま

日時：平成 23 年 9 月 23 日(祝・金)～27 日(火) 5 日間

場所：群馬県庁 1 階 県民ホール全面

内容：◎150 年前にドイツ人画家が描いた江戸風景画 30 枚展等各種パネル展

◎ドイツ製パン、ソーセージ、ワイン、ビール等の紹介、販売 等々

詳細は、別途 8 月初めにお送りするチラシをご参照ください。

B 150 年前にドイツ人画家が描いた江戸風景画 30 枚展

会場と期間：

ホテルグリーンプラザ軽井沢ロビー 8/6(土)～9/5(月) 1 ヶ月間

館林市役所 1 階 ロビー 9/12(月)～9/16(金) 5 日間

県庁 1 階県民ホール(ドイツフェスティバル会場) 9/23(金)～9/27(火) 5 日間

高崎市役所内高崎市国際交流協会前中 2 階ロビー 9/30(金)～10/6(木) 7 日間

C 奏でようドイツ音楽 出演者募集

9 月 24 日(土)・9 月 25 日(日)の 2 日間ドイツフェスティバル会場にてドイツ音楽会を行います。出演希望者は、後日お送りする音楽会リーフレットをご覧ください。

D ドイツサロン(in ぐんま)

日時：毎月第一土曜日 14:00～17:00、

場所：ロンネフェルト紅茶店陶豆屋ロビー 高崎市石原町 3235 (電話 027-327-4151)

参加：自由。会場に直接おいでください。時間不問。(ドイツ人が 1 名は参加します)

E ドイツ語講座

●前橋会場 前橋元気 2 1 (旧西友) 3 階市民活動支援センター会議室

日時：毎月第 2 日曜日 10:00～ (コースにより異なります)

講師：オストバルト先生(東京在住)

問い合わせ：ぐんま日独協会 事務局員 大熊富吉 (電話 027-373-2901)

●高崎会場 上記、ドイツサロン会場・・陶豆屋

日時：第 1 土曜日、第 2, 第 3 日曜日 午後

会場：高崎市ロンネフェルト紅茶店陶豆屋内ロビー

講師：高崎商科大学 松永先生

問い合わせ：直接高崎市の陶豆屋 (電話 027-327-4151)

F ドイツ関連講演会

日時：11 月または 12 月、ベルツ博士及びタウト氏に関する講演会開催予定(全 4 回)。

場所：前橋市か高崎市を検討中。講師は未定。